

平成30年度第1回白井市行政経営改革審議会

- 1 開催日時 平成30年8月1日（水）午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 市役所東庁舎1階 会議室101
- 3 出席者 坂野会長、宗和副会長、片桐委員、伴委員、本松委員、山本委員
- 4 欠席者 岩井委員、藤井委員
- 5 事務局 総務部 笠井部長、行政経営改革課 高山課長、元田主査補、佐藤主任主事
- 6 傍聴者 2人
- 7 議題 議題1 行政経営改革実施計画の評価について
議題2 行政経営改革実施計画の変更について
- 8 議事

●事務局（佐藤）

皆さんおそろいになりましたので、これより平成30年度の行政経営改革審議会を始めさせていただきます。

まずは、皆様お忙しい中お集まりいただきましてまことにありがとうございます。今年度より、この審議会を担当させていただき、また本日の進行を務めます、行政経営改革課の佐藤と申します。皆様よろしくお願ひいたします。

本日の会議は、最終的に午後9時の終了を予定しております。会議につきましては、審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開とし、傍聴定員は10名となっております。なお、本日、藤井委員と岩井委員より欠席の旨ご連絡をいただいておりますが、過半数の出席が立っておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、会長からご挨拶をお願いいたします。

●坂野会長

皆様、こんばんは。非常に暑い中、お越しいただきまして、どうもありがとうございます。現在はいろんな分野で評価というのがはやっております。実際に、白井市でもやっているとありますが、教育評価や行政評価がすごくはやっています。そのときに重要な言葉としては、アルファベットでNPMと申します。ニューパブリックマネジメントという古い英語になりましたが、そのNPMという言葉、これが非常にこの行政であるとか教育行政に及ぼす影響がかなり強いということです。簡単に申しますと、行政のビジネス化ということですが、そのためにやはり日本も変わりつつあるということでございます。

やはり教育の世界も行政のビジネス化は間違いなく入っており、そういう意味では、一つの指標、メルクマールという評価というのが重要です。ただしその際には、実際にサービスをよくするというのが非常に重要で、その附随的な意味で効率性、お金が少し下がるということが重要なことというふうに思っています。さて、それでは、本日も皆様と一緒に審議をしていきたいと思ひます。慎重な審議を何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

●事務局（佐藤）

ありがとうございました。それでは、これより議事進行を会長にお願いし、議題に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

●坂野会長

では、着座で申しわけありませんが、進めさせていただきたいと思います。

まず、第1点ですが、議題、行政経営改革実施計画の評価についてということでございます。事務局から説明をお願い申し上げます。

●事務局（佐藤）

それでは、事務局より議題1について説明をさせていただきます。着座にて説明させていただきます。

まず皆様、資料1をご覧ください。この資料は、計画の評価について、何のために評価するのかという目的と、どれを評価するのかという対象、そしてどんなふうに評価していくのかという評価の方法及び31年度、実際にこの審議会を含め、どうやって取り組みを評価していくのかといった、スケジュールをあらわした資料になっております。一番上の評価の目的から説明させていただきます。

評価の目的は、『行政経営改革実施計画の進捗状況を管理し、計画の取り組み項目を計画どおり実施すること。また、外部評価においては、計画に対する評価の客観性、透明性を確保するとともに、外部の視点から調査審議し、進行管理の妥当性を検証しながら必要に応じて助言をすること』としております。

内部評価だけではなく、外部評価をこの取り組みに加えることで、評価の客観性、透明性を確保しながら、随時、必要な助言を得て計画を確実に実行していくための評価としております。その取り組みの評価の対象としましては、実施計画に位置づけする52の取り組み全てを評価対象としたいと思います。

前回の審議会では、所管する担当課で取り組みの評価が高かった取り組みに関しては、審議会の評価対象としないことで効率化を図ろうと考えていました。ですが、前回の意見で、担当課の評価が果たして妥当だといえるのかといったところもありました。そこで、評価の対象としましては、52の取り組み全てを、所管課、審議会、戦略会議、全てで見たいと思っております。

現実的にどう審議会で評価していくのか。評価の方法について、下のスケジュールとあわせてご説明いたします。

まず、審議会を中心にスケジュールを説明します。来年度、審議会は5月上旬に1回、5月下旬に2回目、そして、評価結果の答申といった形で6月に3回目、合計3回の審議会を開きたいと思っております。

審議会での評価の際に使用する資料が、A3の資料2になっております。前回の審議会の意見で、評価シートに合わせて、実施計画の計画表が一緒に見られたほうが、評価しや

すいのではないかといったご意見がございました。また、取り組みの実績が見えないと、何をもとに評価していいのかわからない。担当課の評価ではなく、取り組みの実績を見て、審議会は評価すべきではないかとといったご意見がありました。この進捗管理シートは、それぞれご意見のとおり、計画表を左のページに載せて、右に取組実績を書く構成になっており、この取組実績をもとに評価を行います。

実施計画に載っている取り組みの一つを例題として載せてみました。左側はそのまま実施計画に載っている計画表で、右側に、こういったことを30年度やっていきますといった目標があります。その下に取り組みの実績を書きます。評価として、所管課の評価と、今後の方針を書いています。この場合は、イのc、取り組みを縮小あるいは統廃合していくとなっております。どのように縮小等していくのかについて、意見欄で具体的な方針を書いています。

こちらだと、扶助費、補助金の見直しという、実際に行政経営改革課で30年度やった取り組みの例を載せてみました。取組実績を要約しますと、まず扶助費の見直しするに当たり、何が対象なるのかを調査しました。すると、扶助費の対象が全体の扶助費の0.3%、1,000万円ぐらいしか見直し効果がないことがわかりました。このままでは見直し効果が低いので、30年の4月に改めて再調査をしました。それでもなお、見直しの対象は余り多くないことが判明しました。そこで、実施計画を見直し、統一的な方針を示すのではなく、取り組みを縮小することとして、行政経営戦略会議で決まったところでございます。8月以降の取り組みについては今後の予定を見込んで書いてあります。

このように、取り組みの目標に対して、所管課が何をしたのか取り組みの実績を各所管課が書いてきます。これをもとに、審議会での取り組みを評価します。

例えば、この場合、所管課では評価A、B、Cとある中で、B：計画どおり進んでいると評価しております。左のページを見ますと、真ん中あたり実施内容のところですね、2段目、扶助費の見直しの検討というのは、30年度から31年度にするものだと計画上にございます。そして、30年度スケジュールどおり見直しを行って、今後の方向性を決めるところまでいったので、こちらに関しては計画どおり進んでいるといった、所管課の評価になっております。

ただし、所管課はそういつているけれど、審議会の考えとしては、例えば、これは計画どおり進んでいないのではないかと、調査したと行って、取り組み実績にこれだけ書いてあるけれども、いや、こういった視点の調査も、あるいは必要だったのではないかとこのもあると思います。そういったときは、例えば、計画どおり進んでいないので取り組みを拡充してほしい、あるいは手段を改善してほしいといった評価になるかと思ひます。

逆に、もともとの計画スケジュールが31年度までに実施するものだったのに対して、取り組みが30年度中に終わっている場合は、計画より進んでいると評価できるため、A：計画より進んでいるといったふうに評価ができると思ひます。

最終的には行政経営戦略会議で、所管課と審議会の評価を踏まえて、市としての評価をします。

一旦、資料2を閉じまして、資料1にお戻りください。改めてスケジュールに入ります。5月、6月には審議会を開き、進捗管理シートをもとに審議会として取り組みの評価、今後の方針、意見などを記入していただきます。評価の際は、52個全ての取り組みを委員全員で見るのは余り効率的ではないです。そこで、評価の際は、審議会を2班に分けて、審議の効率化を図ろうと思います。取り組みが全部で52個ありますので、1班につき26個の取り組みを見ていただくようなイメージです。各班が評価の上、最終的には全員でそれぞれの評価結果を共有して、審議会として評価を決定するような流れで効率化を図っていききたいと思います。

班につきましては、審議会、委員さん8名いらっしゃいますので、会長と副会長をそれぞれリーダーとして、学識経験者と市民公募の方が2名ずつ、4人班で審議を進めていききたいと思います。

最終的な審議会の評価が決まりましたら、6月中旬ごろ答申していただいて、後々戦略会議に諮り、市としての最終決定を決めます。以降の8月からは、決定した評価を速やかに公表します。もし最終評価で計画の見直しが必要となりましたら、事務局と所管課で修正案を作成し、また、公表まで持っていくといった流れのスケジュールを想定しております。

来年4月に、進捗管理シートを所管課がつくりましたら、なるべく早目に、5月の審議会より前に、委員の皆様にお送りしようと思います。事前にご一読をいただいた上で、この取り組みについては自分、こう思うなといったところをおっしゃっていただいて、それぞれの各班で評価をお話していただきます。最終的に3回目のところで、私たちの班は、こういうふうに評価したのですけれども、どうでしょうといったことを、委員の皆様8人全員でお話していただいて、審議会としての評価を決めていくといった流れを想定しております。

説明は以上になります。今回、議題二つあるのですが、特に大きい議題がこの議題1になっておりますので、時間をかけて審議していただきたいと思います。決めていただきたいところは、評価の対象が52個全てか、一部抽出かというところ。評価の方法は2班体制でいいか。進捗管理シートはこちらでいいのか。これらを決めていただければと思います。それでは、会長よろしく願いいたします。

●坂野会長

ご説明どうもありがとうございます。

ところで最初だと思いますけれども、非常にスムーズなご説明ありがとうございます。

●事務局（佐藤）

ありがとうございます。

●坂野会長

今、事務局からございましたが、まず、事務局のご説明に従いますと評価の目的というものが書かれています。その評価の目的、評価の対象、そして最後に方法及びスケジュールという順で皆様と一緒に議論をさせていただきたいと思います。一応目的というのは、やはり行政にとっては非常に重要なものですから、一応確認をさせていただきます。

目的でございますが、行政経営改革実施計画の進捗状況の管理ということと、あと外部評価につきましては、評価の客観性、透明性の確保、そして進行管理の妥当性の検証ということでございます。まず一つ目の目的について何かご意見あるいはご質問等ございますでしょうか。大丈夫であればその次に行きたいと思います。いかがですか、大丈夫ですか。では目的はこれでいかせていただきます。

次に、2番評価の対象でございます。先ほど事務局からございましたが、まず、52全てを行うということになっています。これ前回、ちょうど何カ月前でしょうかね。

●事務局（佐藤）

5カ月前ですね。

●坂野会長

5カ月前にちょっと議論になったと思いますが、ちょうど片桐委員からも話があったんじゃないかと思います。それで全て52を取り組むという話になっています。この評価の対象なのですが、これ実際、全てをやるかという点で52となっています。この全て52をやるかということについては、何かご意見あるいはご質問等ございますか。特にご意見などございますか。反対意見でももちろん構わないと思います。よろしいですか。

前は、行政側がいいか悪いかという評価というのはなかなか信用できないというか、そういう話があったとも思いますが、よろしいですかね。私自身は、行政を信用していると、そういうふうに思うのですが、行政不信の問題がございましたので、これはもうみんなやろうということになりました。では確認ですが、全て52取り組み項目を評価することによってよろしいでしょうか。では次にいきたいと思います。

次は、評価の方法及びスケジュールでございます。

非常に、事務局がすばらしい説明をしていただきましたが、ここでは、3点確認をしなければと思っています。まず、スケジュールはこれでいいのかというのが1点目。2点目としては、審議会を2班に分ける、そして最終的に調整をして審議会としての評価を決定する。2班に分けるということで、4人4人で、26ずつやっていくという点。3点目は、評価シート、資料2のように、所管課、行政経営改革審議会、行政経営戦略会議というふうになっています。このような順序でやっていかどうかというような話だと思っています。この3点、できれば本日やってしまいたいと思います。

そこで質問ですが、行政経営戦略会議というのは、市の最高意思決定になるのでしょうか、行政経営戦略会議という市側の思っていることと、その位置づけを説明してい

ただければと思います。

●事務局（高山）

行政経営戦略会議は、以前は政策会議という、最終意思決定機関でした。それを改めまして、この行政経営戦略会議を置いております。メンバーは市長、副市長、教育長の三役と全部長、それから会計管理者、一部の管理部門の課長が入った会議になっております。毎月大体2回開催しております、そこでいろいろな政策決定をしていく会議となっております。

●坂野会長

ありがとうございます。ということなので、行政経営戦略会議は市側の会議になります。あくまでも、私たちはこの審議会というものの立ち位置になりますので、一応このあたりはご確認させていただきました、どうもありがとうございました。

さて、スケジュールは、実際のところやってみないとなかなかわからないかと思うのですが、どうですか。今、何かスケジュールに対して、もし副会長から何かあるというような話であれば。

●伴委員

一ついいですか。タイムスケジュール再確認なのですけれども、例えば4月に出てくる評価シート、これは30年度実績、進捗ということでもいいですか。

●事務局（佐藤）

はい、そうです。

●伴委員

そうしますと、この資料2の取り組み実績と書いてあるのは、そこまでが入ってくると。

●事務局（佐藤）

そうです。3月末までの取り組みが入っています。

●伴委員

このシートは、あるその案件については、1回のみですか、2回、3回と出てくるのですか、このプロセスにおいて。

●事務局（佐藤）

担当課が書く機会ということでしょうか。

●伴委員

このシートを我々が見るというのは、30年度実績のところまではまず見られる。

●事務局（佐藤）

そうですね、31年度は、また進捗管理シートをつくり、31年度のシートが出来ます。

●伴委員

このシートに加筆されるのか。

●事務局（高山）

30年度のシート、31年度のシート、32年度のシート。3年間の実施計画期間ですので、全部で三つのシートができ上がるというイメージです。

●伴委員

わかりました。とりあえず、30年度までの途中経過と進捗が出てくるということでもいいですか。

●事務局（佐藤）

そうです。

●宗和副会長

スケジュールのことで確認です。30年度実績を対象にした進捗管理シートができ上がってきて、私どもで5月上旬ぐらいに1回目の審議ということなのですけれども、二つに分けるということは、2で割ると26項目を1日で見ると。

●事務局（佐藤）

2回以上は審議会を開こうと思っていますので、26のさらに半分、1日多分13項目ぐらいと思っています。

●宗和副会長

ということは、5月上旬と5月下旬というのでそれぞれ13項目ずつ。

●事務局（佐藤）

はい、そうです。最終的には皆さんで、我々のチームはこういうふうの評価したよというのを全員で確認し合っという形で、最終的に審議会としての意見を決めたいと思います。

●坂野会長

わかりました。他に何かご意見、ご質問等ございませんか。

●片桐委員

シートを事前に配付されると言っていたと思ったのですが、どのぐらいの予定のものが、審議会までに。

●事務局（佐藤）

4月の中旬ぐらいには、皆様にお見せすることができるかなと見込んでおります。まず3月には照会を各課にかけます。3月末までやっている取組みはそんなにはないと思います。2月末までの取組実績はもう書けるはずなので、3月末には、ほぼ完成しているぐらいにします。一応、年度が明けないと見えてこないところもあると思うので、4月上旬までの締切りとし、それを事務局で取りまとめ、4月の中旬ぐらいには、皆様にお見せしたいと思います。ゴールデンウィーク明けぐらいが初めの会議になると思いますので、大体二、三週間ぐらい前には、皆様のお手元に届くようにし、それからの審議会開催を見込んでおります。以上です。

●坂野会長

よろしいですか。

●片桐委員

それだけあれば十分だと思います。

●坂野会長

ほかに何か、スケジュールでも、ほかのことで構わないので、何かございますか。

●片桐委員

シートなのですがけれども、今のお話でこれ見ていたのです。これはその所管課の意見がどうも反映されていないのです。所管課はこれ計画どおり進んでいるというその意見が少し改めて、でも進んでいなかった場合、どういう改善計画を持っているかとか、あるいは何が問題点だったとかということを書くような、そういう余裕があるのですかね、その辺ちょっと気になるのですよ。

●坂野会長

事務局のお考えを。

●事務局（佐藤）

そうですね、おっしゃるとおり、何が問題だったのか、大事なところだと思います。例えば評価がC、計画どおり進んでいないとなったときには、今後の方針が、イのb、取り組みの手段を改善する、スケジュールを変更する、といったことが必要になってきます。具体的にどうするのかといった意見や問題点について、この意見欄に、何が今回問題だったのか、解決策があるならば、これこれこういったことが課題だったので、今後はこういうことに力を注いでこの課題を解決します、といったところが端的に書けるようにしたいと思います。

●片桐委員

それをぜひお願いしたいと思います。そうしないと、やった、やったというだけで終わってしまうような気がして、ちょっと危惧しています。

●事務局（笠井）

片桐さんの意見で非常によくわかるので、この意見というところを、恐らくもう少し項目を絞ったほうが良いということが、みんな職員もわかりやすいじゃないかということが言いたいと思います。みんなが進んでいけば、意見だけで終わっちゃうのだけれども、必ずおくれるものがあるから、課題だとか現状の問題だとか、そういうことをしたらいいということをお願いなのですよね。そこはそのようにいたしましょう。

●伴委員

一つ教えてください。

●坂野会長

どうぞ。

●伴委員

この7月下段に書いている1次評価、2次評価というのを。

●事務局（佐藤）

すみません。1次評価が所管課の評価のことです。2次評価がこの審議会の評価のことです。何の注釈もありませんでした、申し訳ありません。最終的な評価が戦略会議といった形になります。

●坂野会長

もちろん今、伴委員がおっしゃったように、なかなかわからないなという言葉もあるかもしれませんが、そこで何かご質問等ございませんか。

スケジュール、いろんな意見が出てきましたが、審議を2班に分けることや、スケジュールで何かいかがでしょうか、ありますか。全体でもいいです。

●宗和副会長

まず目的のところ。資料に書いている進捗状況の管理、客観性、透明性、最後の行では進行管理と。キーワードが目的のところに示されたわけなのですけれども、先ほど、片桐委員がおっしゃったように、もう少し所管課の考え方だとか課題とか、そういうのを示すということが、まさにそのとおりだと思っていまして、その部分については、客観性、透明性の確保と、結局評価というのは、どういう事実に基づいているのかということと、その事実を照らしてどう考えているのかということがちゃんと対応しているかどうか。その事実がたくさん書かれていても、評価されていなかったら意味がないですし、評価されても何に基づいているのかという事実が示されなかったら意味がない。その事実と、それを見た判断というのをちゃんと対応するような形で表をまとめてもらったほうがいいと思います。それがまさに客観性ということだと思います。

次に、その行の後半に、外部の視点から調査し、なのですけれども、誰を起点に何なのという、言ってしまうと内部にはない視点。その内部はどんな視点なのかという、結局人間誰でもそうでしょうけれども、お手盛りをしてしまうというのがまず一つで、自分がやっていることなので、悪いものは評価できないからお手盛りをしてしまうと、大してやっていないのをやっていると書いてしまうとか、そこは、外部はそういうお手盛りをする必要がないですから、外部にしておきましょうということと、それともう一つは、どうしてもその人その人で仕事にしろ、生活にしろ、限られた範囲で生活していますから、公務員には公務員の価値観で判断する、私は私の価値観で判断しているわけで、どっちがいい悪いという問題ではなく、どうしても、その人の限られた価値観でやってしまいます。だからもっと広い視点で、広い視点の価値観で見えて見ましようというのがもう一つの視点ですので、お手盛りではなく、そう考えたときに、例えば、このシートって架空の例ですから、架空の例で余り議論してもしょうがないのだけれども、扶助費の見直しについて、もうちょっと範囲を広げて見直したらどうということだと思いますけれども、例えばですが、今後どんどん扶助費がふえていくことが予想される中で、その扶助費が発生しな

いように、だからそういう予防するような、そういうようなところまで取り組むべきなのじゃないかと、それはこの評価シートでは書いていないです。恐らく、何で書いていないかという、公務員は自分の課の中で判断しようという非常に縦割りの世界で生きているので、その健康増進みたいなどころでは考えていないと、だからそういうのは出てこないということだと思ふ、架空の例だから余り議論してもしようがないのですけれども、ということ考えたときに、我々はその外部の視点で評価しようというときにこの評価シートには上がってこないようなところまで、もっと広い範囲に評価まで求められるのか、求められないのかと、そういうことまで市としてはやってほしいと思うかもしれないのだけれども、求められるのであれば、外部評価の、我々の外部評価をする側の視点みたいなものもリストアップしておかないと、非常に評価がぶれるのではないかなという気がします。

それと最後に進捗状況、進行管理の妥当性という部分なのですけれども、考え方としては二つあって、進捗管理だから、ここでいうところの実施スケジュールのところを見て、30年度はここまですべてできているねというのも一つ進捗管理だと思うのだけれども、それでいいとするのか。それか、その3年間でやることなので、3年間で結果を出すことなので、その中間地点、途中地点に評価をするというのが、そのやり方ではよくないですよ、一種のいい、悪いの判断ではなくアドバイスをするようなやり方を、もっとこうしたほうがいいじゃないですかというそのアドバイスをするようなことを期待するのか、そこも少しはっきりさせたほうがいいじゃないかなと思います。

外部評価者の視点として、達成しているか、していないかの判断をしてくださいで終わるのか、達成しているか、していないかを判断してください、さらに今のようなやり方で本当にいいのかどうかということ判断して、こういうふうにしなさいというようなそういう外部評価者に対する視点がされていないと、外部評価の意見を入れたらいいかなという気がします。

●坂野会長

事務局でご意見ありますか。内部の視点というのを、要は、明らかにしてくださいということで、特に評価軸を明確にしたほうがいいという話だと思います。あと、外部ということでは、多元的な意見を吸収するということだと思います。政策全体の評価ができるか、縦割りを超えるということ、そこまでやるかというその3点を、ぜひ事務局からありましたら、よろしくお願ひしたいのですが。

●事務局（高山）

この目的のところがありました、前回の52の取り組みが全部できるかというご指摘もありながらも、今回、一応全部対象で見ていただきたいというこちらの事務局としてのお願ひ事項がありました。本来であれば進行管理は、みずからがその計画どおり進んでいるかのチェックというのはできるはずですし、やるべきところではあります。そうはいって

もなかなかやはり進まない事業というのも現実の問題としてはございます。ですので、まずは自分の中での評価をいたしまして、先ほど片桐委員からありました、意見だけではなくて、もし進んでいないのだったら、その課題を自分で、自分なりに明らかにするということをしなから、この審議会では、やはりあくまでもその進捗管理、計画どおりにしっかりこの事業が進んでいるのかどうかの確認をしていただくことが、また一義目的としていただければなど、事務局としてはちょっと考えてございます。

●坂野会長

それから、先ほどの縦割りを越えるような評価という話ではなくて、実際にその進捗管理をやるというのが今の一つのお答えですね、もう1点は、副会長から出ましたような外部の視点、例えば、どういう評価軸にするのかということなのですから、明らかにするか、しないかということなのですが、そちらはいかがですか。

●事務局（笠井）

政策評価との関係なのですよね。今回、また別では政策がどうやって進んでいて、今おっしゃったようにこの事業だけじゃなくて、いろいろな組み合わせもあるよと、こういう評価もやっているのですよ、それとの関連性ですよね。どこまで皆さんにお願いするかという部分だと思います。どちらかというと今副会長が言っているのは、政策的な評価の面がこっちにあるというふうに思っているのですけれども。

●宗和副会長

そうですね、これは難しいところなのですから、外部評価委員が確かにどんどん踏み込んでいって、政策的なところに入っていくということのも、それは出ます。単にこれが達成した、していないというのだったらそれはそれでいいのですけれども、さらに、だからこうすべきだというのを踏み込んでいけば、政策的な議論になるというのは、多分、政策会議もしないでくださいということもあると思うし、政策会議でも、別にそれに従ってやるということはないけれども、意見としてくださいというのは。

●事務局（笠井）

それはこの目的を見ちゃうと、必要に応じて助言というのがありますから、そういう部分に該当すると思うのですよ。ですからもし直接この取り組むだけではなくて、こういう視点、こういうことも考えられるというのは助言でいいと思うのですよ。

●宗和副会長

ちょっとかたい話になるけれども、外部委員の責任の問題もあるのですよね。市民の方も来られていますけれども、例えば、外部委員に何か議論しているけれども、何この甘い評価は、とか。外部評価委員も評価されるわけですから、それを考えたら、一体、外部評価委員の守備範囲がどこまでなのかというのは、やっぱり決まっていないと、外部評価委員、このやり方でいったら厳しいんじゃないかなという気がします。

●事務局（笠井）

求めているのは、一番初め、冒頭に会長が言ったように、行政にはない視点でのアドバイス、助言をやっぱり求めているわけですね。そういう面では、先ほどありましたけれども、この事業は、これだけじゃないよと、こういうものも含まれて、トータル的に検討したらいいかという助言もあっていいと思うのです。

●宗和副会長

もしそうであれば、例えば、今のシートは意見となっているけれども、ここの部分は進捗状況がどうか、進んでいるか、進んでいないかという一種の判断と、またそれとは別の助言と思われたらいいかもしれない。

●事務局（笠井）

先ほどありましたけれども、目的に応じたシートになっていなくちゃいけないですね。透明性と客観性とか何かなければ、この意見の中にそういう部分も入ってなくちゃ本当はいけないのですよね。

●宗和副会長

そうです、だから意見というのが進捗状況がよいとか、進捗状況が思わしくないというのも意見だし、もっと広い範囲でこういう話したらいいじゃないですかというのも意見だから、意見という欄が余りにも抽象的というか、あやふやなので。

●事務局（笠井）

では、そこにホワイトボードがありますので、ここに書く内容をみんなで決めましょう。そこまでいけば、事務局も今後の作業が楽になると思いますので。そこ結構いつも大事なポイントで、せっかく第三者が入ったわけですから、やっぱりこういうアドバイスというのも出したいと思います。どういうふうなことでやるかということ少し入れてもらえば。まずは、所管課の部分が初め出てきましたよね。所管課の部分の意見じゃなくて、この項目、ボックスをどう整理するか、どういう項目がいいか、どういう視点がいいかということをもまず決めて、その後に、この行政経営改革審議会の見る視点のボックスを整理しましょう。

●伴委員

会長、いいですか。

●坂野会長

どうぞ。

●伴委員

副会長が言われた3点については、つまり重要だと思うのですけれども、もともとのところを、根本的なところを考えると、それ行政改革なのですよね。あるいは経営改革、つまり何かを改革しようとしていますよね。したがって、物すごくプライマリーな予算の業務を、予算をつけてこうやって実施して、3年でこうやったよと、やった結果どうだったという話ではなくて、これをやることでどう改革したかというエネルギーがないと、これ

行政改革にならないと思うのです。もともとのところでは、前にも市民の目線で見たらどうなのという話もありましたけれども、もう一つは、担当の役職員の方から見て、確かにこれは改革に値するかと、52の中に全部がそうだとはいえきれないところありますので、そうじゃないのはそうじゃないと言ってもらってもいいわけです。それは、予算は幾らか減らしたよというだけの改革でも全然構わない、ただ、見方としては、これによって改革の若干変わるのだとか新しくなるのだという目線がどこかに入っていないと思ってこの下の意見を読んだのですが、つまり何をやったというのは、これ古いわけですね。こうこういうふうに調べました、こうやりましたと、でも意見は、改革はどうしてなったのと、そうしたら、この案件についてはもう改革になりませんというのは、それはそれでいいですよ。逆にいえば、52もあるわけですから、だけれども、これはこういう面では改革になったと、こういう面では、例えば、一ついえば、市民の皆さんのためによくなるというようなことでも構わないので、それはそれも所管の意見が、行政の改革について何を答えとするのか、どう答えるのかというのがないと、先ほどおっしゃったように、じゃあ外部目線では、それはそうだというのか、それはちょっと違うよというのか、そんなないような気がするのね、何かの業務を何年間かけて、金をかけてあるいは金を減らしてやりましたというのだったら、実はそれ改革ではないような気がする。どう改革したのというのに、こう改革しました。じゃあもっとそれを進めてというのが多分行政改革だと思うので、そのような意見が出てこないですかね。

●坂野会長

実は、先ほど副会長がおっしゃっていたのは、まさに、一つは進行管理の問題で、ここで言うならば、目的の妥当性というのを、あるいは妥当性の検証という、これ文理解釈と申しましたけれども、文章をそのまま解釈しておりますが、進行管理の妥当性の検証というところで、そこに進捗状況と書いてありますが、これがまさに進んでいるか、していないかというその妥当性の話だと思えます。副会長がおっしゃったのは、もう一つ、アドバイス、助言ですね。この助言の部分、まさに必要に応じて助言をすること、それが今、伴委員がおっしゃったところだと思いますので、まさに、2点ここに書いてありますが、この2点が意見に入るのか、あるいはどうするのかという議論になっているので、伴委員のおっしゃることはそのとおりで、それは恐らくアドバイス、こちらに入るのではないかなというふうに思います。

ですから、多分皆さんそういうことでいくとは思いますがけれども、このウエートは多分やってみないとわからないと思います。なので、これは任せるにして、ここでは進捗状況、すなわちその妥当性の問題と、必要に応じて助言、アドバイスの、こちらの議論を進めさせていただきたいと思っております。山本委員、今の話の中で伺いたいと思います、どう思われますか。

●山本委員

評価の視点ですか。

●坂野会長

今の、意見のところ。どう書くか。

●山本委員

計画があって、取り組み実績があって、それに対しての評価になるので、所管の評価と同じ立場の評価しか出てこない。それだと人間が変わっただけで評価が、ちゃんとしたのが出ないので、それをもっとしやすくする。私たちの立場で、私たちの視点で、自分たちがいるところだってどう思われているかわかりやすいようなものになってほしい。

●坂野会長

非常に難しいところだと思いますが。

●宗和副会長

伴委員のおっしゃるとおりで、やっぱり山本委員もそうですけれども、そもそも職員に改革するのだという意識があるかどうかという、もし仮に意識がすごく強ければ、わざわざ計画をつくってやっているような取り組みがそんなに簡単に計画どおり進まないんじゃないかと、大変な、取り組んでいるのだから、ならば、このとおりの計画どおり進んでいないが選ばれるのが多いはずなのに、きっとBがたくさん選ばれるのだらうなどと、計画どおり進んでいる。計画どおり進んでいるということは、そんな大した改革をしていないかなという、その辺がやっぱり内部評価の限界なのです。自分がやっていることはやっぱり正しく評価したいというのもあるし、どうしても、俺はこの範囲で仕事したらいいのだと思ってやっているから、それ以外のところ考えるというふうにはいかないから、だからそういうところも、我々はそのアドバイスをするとというところで指摘をしていかないといけないのかなと。我々のアドバイスが、いわゆるPDCAサイクルに反映されるような形にすべきではないかなと思います。だから我々の指摘が来年度、こういうふうにしたほうがいいですよという次のプランに反映するような形になるような、そういうような、単に言いつ放しではなく、どういう形で反映できるかという視点で整理されてみたらいいじゃないかなと思う。

●山本委員

最初に会長がおっしゃったように、評価という話が採点しただけではなくて、よくするために。

●坂野会長

そのための評価。

●山本委員

評価をして、生かされてく、だから、その評価を改革の一つにしたい。

●坂野会長

山本委員の意見、すばらしいなと思います。何かこのあたりで、事務の方々に何か質問

等がありますか。先ほどから、副会長たちがおっしゃっているように、必要に応じて助言、アドバイスこれがやっぱり大事だというような気がします。

●事務局（笠井）

そういう助言も必要なので、1回、自分で計画つくったものはやめられない、けれども相手があることなので、そんな計画どおり進まないのですよ。当然それを追いかけている市民とか、市民団体がいますから、そんな簡単に計画どおりにやったら、やっぱり説得しなくちゃいけませんから、当然、本当に真剣に全部見直すのだったら時間かかりますよ。ちょっと自分の範囲、今の話聞いていると、自分の課では所管課に対しては、当然意見じゃなくて、一つは問題点があるだろうと、問題点と意見でいいんじゃないかと、余り細かくしちゃうと、容量ボックスが書きづらいので、当然、今後の改革を進めていくためには、相手があるし、いろんな弊害があるわけだから、問題点を書いてもらう、そして、その後に意見、どうしたらいいかということ自分で考える。これが所管課のボックス。皆さんのボックスについては、当然意見だけじゃなくて助言ということが大事ですよ。じゃこういうふうにしたらどうって、こういうやり方はどうという助言という項目も設けたらどうかというように思いました。その辺ぐらいの区分けぐらいが書きやすいのかなと、やっていく中で、もっとこういう視点も入れようというのだったらいいと思うのですけれども、出発点はそのくらいでいいのかなというふうに、自分の中では今整理をしたのですけれども。

●坂野会長

皆様、今のご意見いかがですか。ちょっと言い方を変えますと、所管課の下には、現状と課題という形というものになるでしょうし、ここの2点という部分、むしろ進捗状況の妥当性、そしてアドバイスというのを広く意見というふうに捉えることもできるので、この中でいろんな意見が入る、意見のいろんな考え方をここに入れることができるので、意見としてホワイトボードに書いていただいているような進捗状況、そして助言という両方アドバイス書けるのではないかなというふうに思います。ただ、このあたりは、やってみないとわからないという部分はあるのではないかと思います。どうですか。

●宗和副会長

こっちのシートは、進捗状況とアドバイスというか助言というかと思えますけれども、二つでいいんじゃないかなと、進捗状況についてはご指摘のように、全てについて、極端なことを言ったら、プルダウンでもいいぐらいで、助言は、やれるものもあれば、やれないものも、助言があるものもないものがあるから、それぐらいでいいんじゃないかなというふうな気がします。

●事務局（笠井）

そうすると、目的と合っているのですよね。管理と必要に応じた助言なので、目的が。

●坂野会長

実は、これシートを見ていただきますと、事務局がすごく考えてくださったなというふうに思うのは、評価をA、B、Cというふうに3段階に分けて、今おっしゃっていた進捗の条件に関してはA、B、Cで明記してしまって、そしてアドバイスというふうに考えるとすごくわかりやすいといえればわかりやすい状況がシートになっています。これは事務局で一生懸命頑張って考えていただいたと思いますけれども、これはそういう意味では、副会長がおっしゃっておられるものと非常にマッチしているように思うのですが、副会長いかがですか。

●宗和副会長

その二つに分けて、あと今の委員長の意見で結構なのですけれども、一つプラスアルファで論点を言うと、進捗状況についての意見を言うかどうかです。今、どうなっているかという、進捗状況についてこれなので、1、2、3で選ぶというのと、もう一つは、意見を書くというボックスになっているから、この意見が例えば1を選んでもらったの根拠を言っているのか、助言を言っているのかというのがわからないので、であればその進捗状況と助言があって、1、2、3の助言と、ここに根拠があるのと、にしたほうがわかりやすいじゃないかなと、これは必ず全てのやつでやって、こっちはしっかり書いているのがあれば、それほど書いていないのもあれば。

●坂野会長

副会長からそういったご意見出ましたが、いかがですか、皆さん、ご意見何かありませんか、大丈夫ですか、今の意見、皆様が評価するので、評価しやすいように考えていただければと思うのですけれども。

●伴委員

今疑問に思って考えていたのですけれども、この意見というのは、やっていることに対する意見なのか、それとも、所管課で評価に対する意見なのか、どちらですか。

●宗和副会長

それも一つの重要な論点でございます、評価が正しいのか、やっている事業が正しいのか。

●事務局（高山）

それ前回の意見、ちょうど片桐委員の意見としてお伺いしているのですけれども、こちらが役所側でやる自己評価については、確かにお手盛りになりがちなところはありますので、そこに対して評価することに意味があるかどうかという前回の議論があったかと思えます。一応、1次評価としては所管課でしますけれども、この審議会では、その取り組み目標に対する取り組み実績を確認いただいて、審議会としての評価をしていただきたいと思いますと考えております。ですので、1次評価についての評価というのは参考にはしていただけたらと思いますけれども、それに対する評価ではないという位置づけにしたいと思っております。

●坂野会長

よろしいですか、1次評価の評価はしないという話でございます。何かいかがですか。これだとやりやすいとか、やりにくそうだとかというのがありましたら、意見ありますか。

●本松委員

最初はこの進捗状況とか、どうしても、上に実績が書いてあるので、それのおりだったら、どうしても所管課に、同じような感じになってしまうので、違う意見が出るということがまずあるのかなと私は思います。別に評価をする場合その所管課で意見が違っていることがある。

●坂野会長

私が見た感じでは、あることもあります。

●片桐委員

予算執行状況、ある課は、こんなに幾ら使ったという評価をしている。それは予算を使ったということは何にもないと、予算を使ってどういったことをやったと、結果出せと、意見が出てこない、要するに、1人当たり幾ら予算を消化したかということの評価した。そうじゃなくて、その本当の対象は、単にお金を使って問題が次から出てきたということをもまず行ってしまった。問題はやっぱり所管課の評価ということ、外部的な評価とは違ってくることですね、だから所管課って信用していないのですけれども。

●坂野会長

いかがですか。

●宗和副会長

私は、具体的に言うところとちょっとわかると思うのですけれども、私も聞いた話では、昔は、実績という欄には予算額を書くというのが普通だったのです。私が評価をやり始めたころは、アウトプットとか、アウトカムとかという、結果を評価していたので、予算額を書くというのがなかったのですけれども、おっしゃるとおり、アウトプットというのは、計画書に何かやりましたというふうなことでの、アウトカムというのは、その計画書を受け入れた人たちが、例えば健康に気をつけるようになりましてというそこまでなのですから、どこまでが行政側として責任を持てるのかということにもよってくるので、もちろん健康に気をつけて、健康になってくれるのがいいです。そこまで行政側として責任を持てるのかと、責任が持てないところを評価していいのかということもあるから、その辺の評価が難しいところです。

●坂野会長

伴委員、何かありますか。

●伴委員

できれば私が欲しいと思うのは、所管のセクションの課題の問題点なり、これをやったときの改革をしたアピールというのですかね、我々もこれをやったのだということをも

っと針小棒大に書いてほしいのです。改革につながったのだということ、これをやりましたというだけだと、多分こちらは何も書けないことになってしまうことがどうも恐れているのです。52もあるのだから、その中の幾つかとは言えませんが、ああ、なるほどこれは改革になったねというのを見つけたい感じもするのですね。ということは、そのアピールしてもらわないとだめなので、私はここの最後の意見という欄といいますか、ここは問題、課題というのも当然必要ですけれども、これによってこういうふうに改革したのだというアピールをぜひ欲しいと思うのです。こんなの必要ないよという意見が審議会の中であるかもしれませんが、所管はだけけれども、これをやりたいのだよということを聞きたい感じがするのですね、やりました、ああそうですか、じゃあ終わりですねというのだったら、行政改革にならないような感じがして。ぜひともこれはこういうふうに改革しましたというアピールが、これを進めていけば3年後にはこうなりますというのをぜひ聞きたいと感じがする。無理ですかね。

●坂野会長

ありがとうございます。私の経験から言いますと、まず、私、性善説なのでしょうかね、公務員の人を書いてきたものというのは、実は二つありまして、一つは、初めのころは、甘いという部分が非常にあるのですけれども、この評価であるとかそういうものが浸透していくと、逆に外部評価よりも自分たちに厳しいことを書いてくるというのが結構私、実感しております。

例えば、この本市でいいますと、白井でいきますと、実際に、市民参加のこの評価に関しては、浸透するまでは結構、えっという感じでしたが、浸透すると、ここまで厳しく自分たちのことを書くのかなと、自立しているのかなということを感じるような感じで書かれますので、やっぱり先ほど副会長がおっしゃったように、意識の問題と、その評価というのがいかに浸透するかということが重要で、私も公務員の方々の1次評価も捨てたものじゃないと思っているのですけれども、私は、そういう意味では、非常に信用している部分はあります。

●宗和副会長

伴委員のおっしゃるように、何とかな、改革に取り組むみたいなものをもっと示すべきじゃないかということであると、その考えをシートに当てはめていうと、取り組み目標というのが①のところであって、取り組み目標の設定そのものも評価対象にするか、しないか、二つの考え方があって、取り組み目標というのは主要なもので、それはもう評価の対象としません。その取り組み目標を達成するだけの取り組み実績があって、取り組み実績が、客観的事実が、それが評価対象なのですけれども、そんな取り組みじゃ取り組み目標を達成できないよというのも一つだし、もう一つは取り組み目標そのものの設定が違っているんじゃないかということの評価するのかどうか、意欲のない取り組み目標があったらそこをもっと意欲のある改革に取り組めということですから、伴委員がおし

やるような考え方については、取り組み目標そのものも評価対象とするということになってくるけれども。

●坂野会長

実は、伴委員の、私答えていなかったので反省しているのですけれども、アピールという点では、確かに、事務局でつくっていただいたときには、そういう意味で意見というのはあるのかなという気はしているのです。というのは、ちょっと私見たのは、左側のシートのこれまでの取り組みというところで恐らく現状と課題を書かせて、そしてこれからの取り組みに、それについての対策を書かせ、そして意見というところでアピールしてもいいようなそういうシートになっているというふうに理解したのですが、事務局でどういう意図でつくられたのでしょうか。

●事務局（高山）

これまでの取り組みのところですよ。

●坂野会長

現状と課題を書いていただくつもりなのか、ということです。そういう趣旨でこれできている。現状がこれまでの取り組み、これからの取り組みが課題、こちらを見て現状と課題を書かせて、この意見というところでは、本来は、先ほどの伴委員のアピールというか、もしかしたらいいわけかもしれませんが、そういうのを記述されるという意図で書かれているのですか。

●事務局（佐藤）

ここに書くのは、所管課それぞれが計画どおり進んでいるのかどうか。今後それをどうするのか。現状維持か、あるいは、目標そのものを見直すのか。今後の方針を決め、具体的には、スケジュールの変更、あるいは取り組みの拡充など、その具体的な方法について書ければいいなと思っておりました。

意見という表現だと、おっしゃるとおりいろんな見方があると思います。意見といって何を書けばいいのか。問題点、課題点なのか、現状なのか。審議会意見ならば、今後市に求めることなのか、助言なのか、いろいろあると思います。ちょっと曖昧な「意見」という表現にしたのは、52個取り組みがある中で、項目を絞ってしまうと、なじまないものが出てきてしまうのではないかと思い、若干ぼかした表現になっております。その辺は、記入例か何かつくっておいて、意見の欄にはこういうものを書くのだよというような感じで書こうかなと考えておりましたが、おっしゃるとおり、ある程度具体化したほうがいいんじゃないかと。その辺は所管課であれば、課題あるいは問題点で、行革審議会ではこういったことは、なるほどよくできているけれども、もっとこうしたらいいんじゃないかといった助言はあっていいかなと個人的には思っております。

●坂野会長

意見という表現は、わざとこういうふうに、大枠というか、こういうふうに広く解する

ということなのですね。意見というふうにされたら理解できます。私もそう思っております。1点、伴委員が言われたように、アピールないしは、いいわけかどうかわかりませんが、答弁というか、そういうのもこちらに書けるような趣旨であったかということなのです。

●事務局（佐藤）

そこに関して、もちろん書ければとは思いますが、具体的にどこまで書くかです。例えば、歳出の削減が図られたぐらいのものであれば書けるかなと思います。逆に、何の取り組みによって幾ら何が減ってどう効果が市民に波及したのかまで書くとなると、恐らく評価する側と書く側の事務分担量がとても膨大になってしまって、先ほど示したスケジュールどおりで、あるいは進まないのではないかなといった懸念がございます。ただ、伴委員おっしゃるとおり、せつかくこういうことやっているの、改革の効果のPRということで、見た方が、ああなるほど、この取り組みをやることによってこんな効果があったのかというのは、確かに見えたほうがいいかなと思っております。ただ、そこまで深く何が幾ら、どれだけだったとまでやるとなるとちょっと難しいかなと。

●宗和副会長

それは最後の。

●事務局（高山）

最後の、3年間、計画が終わったところで。

●宗和副会長

中間では、こういうことをやりたいのだ、こういう効果があるのだということをもっとアピールしてほしい、じゃないと、戦略会議でも、ああこれはいいねとか、これはどうだというのは見えないだろうと思うのです。我々も先ほど副会長が言われたように、内部と違った目を見ていくというと、やっぱり何をアピールしているのか、何を主張しているのかというのがないと、ああそれはまずいとか、それはいいとか言えないので、こういう見方もほかにあるよということも言えないので、数字とかそういうのはもう最後でいい、あるいは結果でもいいと思うけれども。僕は、自由に書いてもらったほうがいいみたいな気がする、そういう面では。

●山本委員

何年計画とかあるじゃないですか、その事業とかやるのも52の項目の中で、やっぱり最後まで、言い方ちょっと言葉がよくわからないけれども、最後までたって結果が出ないと、その結果で成功したとか、あるいは改革につながったとかわからない、経過でわかる、途中で、状況的にアピールできるものがある要素、報告書1年ごと、年度ごとの部分でアピールできるものがあれば、できないものもあるじゃないかなというふうに思っていた。

●坂野会長

まさに、山本委員がおっしゃるように、私もそれをお話しようと思ったのですけれども、

実は、他市でも実際ありましたし、本市でも実際あったのですが、今のおっしゃったように、アピールできるもの、できないものがまずあります。そうした後、ここで書いて適切なものか、そうじゃないものかというのがあって、本市でも市民参加の評価は実際にヒアリングをするというふうになると、書いてあったことと違うと、もっといいことをやっているんじゃないかと、むしろ積極的にプラスの部分が出ることもありますし、書いていることと違っているじゃないかという逆の評価も実際あったわけです。ですから、そこは非常に難しいところなので、これはもしかしたら、今すぐ結論なかなか出ませんので、一度やってみて、その後少しずつ変えていくと、我々行政の言葉でインクリメンタリズムという言葉を使うのですが、少しずつ変えるというのが私はいいいのではないかなというふうに思うのですが、皆さんいかがですか。

●事務局（笠井）

さっき、事務局も言ったように、意見のところを少し所管課では、現状課題と意見、この審議会では助言と意見、こういう大きなくくりの中で、まずやってみよう、その中でいろんなものができれば加えたり、直したりしていくと、それでいいですね。スタートはこれで。

●坂野会長

よろしいですか、インクリメンタリズム、少しずつ変える、漸増主義と言っていますが、少しずつ変えていく、これでいきたいと思えます。よろしくをお願いします。

ということで、大方、やってみないとあれだということなのですが、もう一つの論点としては、2班に分けて、この52、26ずつ評価をするという話がございました。これについては皆さんいかがでしょうか、何かご意見、よろしいですか。

●片桐委員

ある程度、時間的余裕があって、事前に対応してもらえば、事前に見られるわけですよ。そうすれば2時間ちょっとぐらいあれば、1項目10分ぐらいはかかりますか。

●事務局（佐藤）

そうですね、1回13項目で、130分ぐらいかと。

●坂野会長

では、その2班に分けるということは、まず、一応会議としては意見が一致したということで、二つ目としては、その以降の方向でございしますが、何かそのあたりでご意見あるいはご質問等ございましたら。片桐委員は、これでいけそうだといいことでしたが、何か今のうちに、不安であるとかそういうものが、意見がありましたら。

●宗和副会長

ぜひお願いしますということでは全然ないのですけれども、所管課とヒアリングをするような機会というのは、あるのかどうか、必要に応じてとかそういう形だとは思いますが、けれども。

●事務局（高山）

審議会と。

●宗和副会長

そうですね。

●事務局（高山）

52全部というのはなかなか難しいと思いますが、もしその中で、事前に、なるべく早い段階で、評価シートは委員の皆様にお渡しする予定ですので、その中で、もし気になった項目、事業があれば、委員からご指摘いただいた部分について実施するというのはできると思います。それはこういった形で交換するかというのはあります。

●宗和副会長

例えば、所管課で書いている言葉が意味がよくわからないというようなのがございます、聞いてみないとわからない、それと所管課は評価しているのだけれども、全く180度違うという場合、そのケースは、委員としては聞いてみたいということになるんじゃないかなという、そのときには、対応しますというのか、しないというのかというのものもあるし、するとすれば、どのタイミングがいいのかというのものもあると思うし。

●事務局（笠井）

あと絞ってもらって、この事業のもっと深掘りしていきたいとなれば、担当者が担当、書いた人と呼んで、キャッチボールして、正式にしてということですよ。お互いに思い込みではいけないから、その人の意見を聞きながら、もう少し。

●坂野会長

この辺はいかが。

●事務局（笠井）

会長、今話をして、やっぱりもしわからないところがあれば、直接職員を呼んで、そこで意見交換しながらやったほうがいいと、また、質問状なんかやってくると、どんどん仕事がふえちゃって、行政経営改革やっているのに、また、やりとりに時間かかっちゃいけませんので、直接来てもらってお互いに意見交換しながら評価をしてもらおうと、それがいいと思うのです。

●坂野会長

各担当課に来ていただくということ。

●事務局（笠井）

そうです、全部じゃないです。あくまでもこれちょっとわかりづらいとかわからないとか、そういうところに。

●事務局（元田）

あと、先ほどの戦略会議の日程に関しては、通常、第1、第3水曜日を戦略会議というふうにやっていますので、7月ですとそれに合わせるような形で、その前にやりたいとい

うふうに考えているところです。

●宗和副会長

ありがとうございます。よろしいですか。5月の上旬ぐらいに1回目をして、5月の下旬に2回目をして、そこで評価計画を共有し、評価を決定するということなのですけれども、そうなってくると、恐らくこの第2回で、例えば、これは聞いたほうがいいんじゃないのという場合、1回はそれで、第3回の6月中旬のときに来ていただくぐらいのイメージですか。

●事務局（高山）

審議会として、ピックアップしていただくのは、もう1回目開催したときでやるしかないと思います。

●坂野会長

そうしたらもう、1回目の段階で、これは聞きたいというのを選んで、そうしたらもう、これの1回目の5月上旬のときから場合によってはきている。

●事務局（笠井）

もし、この事業を少し聞きたいことがあればやっていく、それがもしきついのだったら、2回目のときに、1回目、2回目を通して、やっぱりこの部分でもう少しちょっと意見を聞きたいよねということで、2回目に呼ぶことは可能です。3回目に呼んでももう整理ですものね。

●坂野会長

ですから、副会長が中心になってやっていただくことになると思います。

●事務局（笠井）

全員を呼べといってもなかなか、やっぱりどうしても疑問に思うところはあると思うのですよ。さっきも言ったように、例えば、こんなに職員も、うそは書きませんから、ただ、やっぱりどうしても、納得できないところについては、そこは直接来てもらって話をするという事はいいと思います。

●坂野会長

白井市の職員は、ほかの参画とかそういうところでかなりやられていますので、ここはある程度信用できると思います。でも、疑ってかかるということも大事だと思います。

ほかに何か聞いておきたいこと。ご意見ありますでしょうか。

ということで、一応議題の1というのはこれで終わらしまして、次に、議題の2にいきたいと思います。議題2、行政改革実施計画の変更について、説明をお願いします。

●事務局（高山）

資料3をご覧いただきたいと思います。議題2といたしまして、行政経営改革実施計画の変更ということで、この当課で担当しております項目の修正のご報告ということで、左が修正前、右が修正後となっております。修正前につきましては、この扶助費、いわゆ

る社会保障費、福祉ですとかそういったものにかかる経費ですけれども、その扶助費について、統一的な方針を示し、見直しを行うというこれからの取り組み項目として位置づけをしておりました。

冒頭、事務局から話したとおり、この扶助費の調査をいたしましたところ、扶助費については、国の施策で行っている制度、例えば、生活扶助といった制度については国の制度になっております。あるいは県が行っている制度も多々ございまして、市が方針を示して統一的に見直しというものが以外にも少なかったという調査結果が出ましたので、その調査結果を踏まえて、当初は、この統一方針をつくって、見直しを行おうという取り組み項目を考えておりましたけれども、調査の結果で、そこはちょっと縮小ということになりますけれども、右側のこれからの取り組みにございまして、行政経営改革課、当課と担当課で扶助費を担当している所管課とヒアリングを行いまして、市側に支出している扶助費について、そのヒアリング結果をもとに、ある一定の方針を全庁に示しまして、その扶助費の適正化を図るという取り組みに修正をしたいということで、こちらについては、6月の、先ほどお話した行政経営戦略会議でこのスケジュール案の変更については、市としては了承をしておりまして、策定にかかわっていただきました審議会に、この修正案についてご報告をしたいということで提案をいたしております。説明は以上になります。

●坂野会長

事務局の説明どうもありがとうございました。一般的、抽象的な、統一的な方針というものを示すのではなくて、個別具体的に議案を考えるということになるかと思えます。これは審議会の意見というのは、ある程度反映されるものなのですか。

●事務局（高山）

そうですね、一応、市として、こういう形で、じゃあやっ払いこうというのは、内部では決定はしておりますけれども、計画策定についても審議会の所掌になりますので。

●坂野会長

わかりました。ありがとうございます。ということで、今、事務局からご説明いただいた内容につきましては、皆様のご意見あるいはご質問等ございますか。

●宗和副会長

網かけのかかっているところ、その下の実施スケジュールのところを変更されていて、変更内容は、扶助費の見直しというのが30年度中に終了して、見直しの実施が31年から始まるという形なのですけれども、上の文章の、ヒアリング結果をもとに方針を示し、適正化を図るという、方針を示すというのは30年度中に完成するということ。

●事務局（高山）

そうです。今、来週からその扶助費の各課にシートをつくってもらいまして、ヒアリングを担当課と行いまして、本来は、先ほど言った統一方針があるのが一番なのですけれど

も、扶助費についてはその性質がかなり広範にわたりまして、統一化というのがなかなか難しいというところがありますので、少なくとも、当課とそれぞれの縦割りになっていますので、複数課が扶助費を所管しておりますので、その中身を確認して統一観を持たせようと、同じような扶助費であって、例えば、所得制限があるもの、ないものとか、そういったのが現にありますので、その辺の統一観を図った上で、その結果を庁内で共有しようと、それがいわゆる方針という言い方をしておりますけれども、という整理をしたいと考えております。

●宗和副会長

今、ちょうどいいだろうと言ったのは、事務局の話だけでも、31年度に評価をすると、評価をした結果でこちらの変更が出てくるのがあるというところ、それが一番最後の部分なのですけれども、そうすると、我々のアドバイスが計画を修正すべきかすべきでないかというのを入れるべきかどうかというのを一つ、ここじゃなくてもっと後ろで考えるから入れないというのものもあるかなと思うけれども、一つ論点は。

●事務局（高山）

そうですね、そこは先ほど進捗管理、進行管理というのも本当にしっかり行いたいところが大きいので。

●宗和副会長

末端の狭い進捗管理が達成したか、してないかという狭い範囲だったら計画変更と出てもいいと思うのだけれども、そもそも計画から見直しを、変えたほうがいいんじゃないのというそこまで進捗管理が、どう捉えるか。

●事務局（高山）

所見をしていかないと。

●宗和副会長

やり方こう変えたほうがいいんじゃないのという程度の助言ではなく、もっと計画そのものを変えなさいというだけではちょっと重みが違うかなと。

●事務局（笠井）

それをどの時点で見るともあろうと思うのですよね。まだ、その計画を練っている時期でそれを出すのか、それともある程度、全部終わってから、ある程度方向性出たときにやるのか、それもありますよね。

●坂野会長

よろしいですか。かなりすばらしい議論が尽くされましたので、次に、議事の1、2が終わりました。何かその他で事務局から。

●事務局（佐藤）

本日、皆さんからいただいたご意見を、この進捗管理シートに反映させまして、最終的には会長に見ていただきます。最終形を今年度中につくりまして、それについて、所管課

でつくっていただいて、来年の4月ぐらいには、事前に皆様に開催通知としてお送りして、来年は5月ぐらいから、また、皆さんに集まっていたらご審議をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●坂野会長

ありがとうございます。一応、議事が終わりましたが、今回は、議題1、行政経営改革実施計画の評価ということに関しましては、スケジュールという点については、この流れで構わないだろうという結論が出ました。そしてその次に、審議、2班になる、そしてその際には、必要があればヒアリングをするという話が出てまいりました。3点目ですが、このシートに関しましては、最後ですから、意見というところを、さらに細分化をしたほうがいいのではないかとということで、事務局で練っていただけるのではないかとということで、こういった意見がありました。

今の行政経営改革、実施計画の変更につきましては、今後、やはりこれは修正等を含めまして、その助言の位置づけというのが、今後どのようになるのかというのは、これもやってみないとわからない部分だと思いますが、そのことも含めまして、実際の評価を皆さんは心がけていただければというふうに思います。ということで一応、今回はこれにて議題が終わりまして、皆様の慎重審議のおかげで非常にスムーズな議論で、しかも内容の濃い審議ができたかと思えます。本日も暑い中、慎重審議、感謝を申し上げますとともに、次回も何とぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。